

旅を楽しんでみませんか

国内旅行業務取扱管理者 **飯 嶋 章**

【経 歴】

平成25年 民間会社定年退職
 平成12年 NPO法人関東SLA協会員
 平成26年 守谷市人権施策推進協議委員
 平成26年 守谷市民大使、守谷市民大学運営委員

1. はじめに

2017年5月、“TRAIN SUITE四季島”の運行が始まりました。3泊4日で100万円以上もする列車にも関わらず、来年3月まで売り切れ状態(2017年7月時点)。また、2013年に登場した“ななつ星”も、今現在も多くの申し込みがあるといえます。

両列車とも最高の設備とサービスを目指し、乗客は、そこにある非日常空間の中に身を置き移動時間を楽しむ。これとは対極の日常空間の列車に身を置き、楽しまれている方もいます。



ここで、余暇活動の参加人口を見てみると、5年間連続で「国内旅行」が首位を獲得し、2015年には5,500万人を記録しました。

■図表1 余暇活動の参加人員上位(2015年)

順位	余暇活動種目	万人
1	国内観光旅行	5,500
2	外食	4,390
3	ドライブ	4,340

出典：日本生産性本部レジャー白書2016

しかし、一世帯当たりの旅行関連支出は、約12万円/年で全支出の約3.5%であり、ここ数年の大きな変化は見られていません(国土交通省観光白書2016)。したがって、今後は、支出を抑えながら「いかに旅を楽しむか」が問われていると思います。

今回は、「中高年(退職後)の旅」という視点で考えてみたいと思います。

2. 中高年の旅

中高年の旅に対する思いとして、「時間はある。しかし、費用はかけず、楽しく継続性があり、かつ健康にも良い」という所ではないでしょうか。

また、「旅の企画～実行してみたいはいかがでしょうか?」と聞くと、多くの人から「自分が主役になるのは御免。参加するだけなら良い」と言う方が殆どで、受身型が多い事を実感します。

■図表2 旅の環境変化

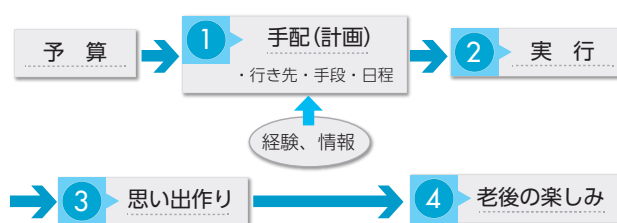
	旅に対する期待
現役時代	息抜き→限られた時間→旅はプロ任せ
現 役 後	楽しみたい→時間有り→多くの選択

今まで行って来た旅をそのまま引きずるのではなく、環境変化に対応してこちらも変化して行く。その基本は「人任せにしない」という点ではないでしょうか。中高年は、時間はあるのですから。

3. 旅の流れ

ここで、旅の流れをみていきたいと思います。なお、下図の番号は、以下の小項目NOに対応しています。

■図表3 旅の流れ



3-① 旅の手配 (計画)

- 1) 募集型企画旅行(旅行会社が企画した物)
- 2) 受注型企画旅行(お客が企画し旅行会社が手配)
- 3) 個人旅行(全てお客が準備・実行)

企画をするにも経験を持ち合わせていないという方に、私はまず「一人旅」、それも鈍行列車旅

をお勧めします。この旅の良い所は、全てを自分で自由に決められ、他の人が入る隙間が無く、費用も抑えられ、列車内での生きた情報（地元の話、観光地）や人情、家族の有り難みを体験できるなど多くの経験を積めることです。また、旅の手配は、内容や参加人数により方法を変えた方が良いと思います。それについては、以下3つの例を示したいと思います（コスト意識は常に）。

①夫婦旅（家族）

状況に応じて旅手配形態は1)～3)が対応できますが、あとの楽しみは2)から3)となるに従い多くなります。

また、1)を選択時でも、どのような旅をしたいかは必要です。ここでのポイントは、

- ・良く話し合う→お互い納得する（旅が好きなのですから）
- ・継続させるための旅のキーワードを決める（例えば、神社仏閣巡りをしたいなど）

②グループ旅

今回は「5～6人程度の趣味仲間」という条件で考えてみたいと思います。

最大の利点は「趣味という共通ワードがある」、「気心が知れている」という点で、旅の継続性が出しやすいという所です。

旅形態としては、2)または3)で、「夫婦旅」とは比べ物にならないくらい多くの経験ができます。

また、日帰りなど比較的小さな旅（お金は各自払いなど）で経験を積みながら、徐々に宿泊を入れた大きな旅への移行が良いと思います。ポイントは、

- ・全員参加にあまりこだわらない
- ・ドタキャンへの対応（これを上手く行わないとグループ自体のきまずさに繋がります。方策は、グループでの決め事を明確にすることです。）

③団体旅

団体の定義があいまいな所があるので、親睦会などの任意団体を想定してお話をしたいと思います。

移動交通手段はバス手配が中心なため、

- ・他のお客を気にする必要無し
 - ・場所の自由度がある
 - ・費用を抑えられる
- 従って旅形態は2)を中心に考えます。

また、実行に当たっては、

- ・アンケート調査によるニーズ把握
- ・実行委員の募集（3～4名→旅程の偏りが無くまとめやすく、打合せ時間や場所確保が容易）
- ・実行委員による参加者への展開、明確な仕事配分（主催者としてのサポートは充分に）
- ・反省会の実施（継続の為）

組織作りという大変さはあるのですが、活動を通して、旅の楽しみを最も多く経験できます。

3-② 実行の時

いよいよ旅の実行です。ここでは、自分や仲間が計画した旅程を実際に行っていきます。

- ・どんな旅でも任せる事は任せ、参加者と一緒に旅を楽しむ事に徹しましょう（主催者が楽しまないと参加者も楽しくありません）。
- ・トラブルは付きものであり、特別な事ではありません。経験はある事に越したことはありませんが、経験が無くても救いは現れます。下向きにならない事が重要です。

3-③ 思い出作り

デジカメのメモリーに入った多くの写真、箱に入れた写真などが必要になったという時に限って出てこない。こんな経験ありませんか？

「鉄は熱いうちに打て」という訳ではないのですが、旅に行った思い出がある程度頭に残っている内にまとめてはいかがでしょうか？

旅日記やファイル（100円ショップにあるクリアブックなど）にパンフや写真などを入れて整理することにより、思い出を再認識できるだけでなく、エピソード記憶が鍛えられるという副産物もあります。

3-④ 老後の楽しみ

旅が出来なくなった時、整理された記録はいろいろな使い道が出て来ます。例えば、

- ・記憶と記録による思い出
- ・話題提供、指導
- ・シニアノート（輝いて生きる為のノート）、自分史、エンディングノートなどの資料などです。

4. 旅から得られる楽しみ

旅程を実行するには、普段使わない「計画力」「注意分割力」が試され、また、記録に残す事による「エピソード記憶」の訓練となり、結果として「認知症予防」の1つにつながります。また、参加者からも感謝され、共同作業による仲間意識の向上を通して、新たな社会参加意識が芽生え、前向きになれる。

ただし、徐々に自分の力量に合わせ、たとえ小さくても旅の変化を楽しむ事が重要です。同じ事の繰り返しは苦しみにつながり、旅の継続が困難になってしまいますから。

■この「つくばのシニア人材紹介コーナー」は、つくば市が2008年度から推進している「つくば市OB人材活動支援事業」に登録されている研究者・教育者の方々より寄稿を受けて作成しています。現役を一旦引退されてもいつまでも社会発展の牽引力となって活躍をされている方々の研究実績や業務経験の一端をご紹介します。ご紹介します。